



プレアワードセッション

# URAによる研究先導の取組

長崎大学 研究推進戦略本部

協力

神戸大学 学術研究推進本部

徳島大学 研究支援・産官学連携センター



# URAへの期待

平成23年、文科省URAシステム整備事業開始、全国URAの人数は急増加。

URAは、大学等において、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指します。

文部科学省研究大学強化促進事業募集要領より

公募申請から成果の権利化まで研究プロジェクトのマネジメントを支援するリサーチ・アドミニストレーターや、研究の芽を発見し、これを推進する目利き人材の確立など、研究支援・研究協力体制の整備。

R11「国家の成長戦略として大学の研究・人材育成基盤の抜本的強化を  
—新成長戦略、科学技術基本計画の策定等に向けた緊急政策提言— 平成22年3月19日」より

しかし、現状と期待の間にギャップがある。

現状では、「どれだけ外部資金を獲得できたか」だけでURAが評価される傾向。

**研究推進のため、URAは何ができるか？  
「研究先導」を一つのキーワードとして  
その「可能性」と「限界」を議論したい。**



# URAによる研究先導の重要性

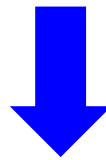
先導とは：先に立って導くこと

研究先導：サイエンスの発展や新しい応用展開に繋がる活動

## 手段

URAは、直接に研究に従事していない。  
しかし、多様な取組を通して、  
研究者にたくさんの  
研究発展の可能性を提供・示すことができる。

このような「研究先導」の取り組みは、URAの重要な役割



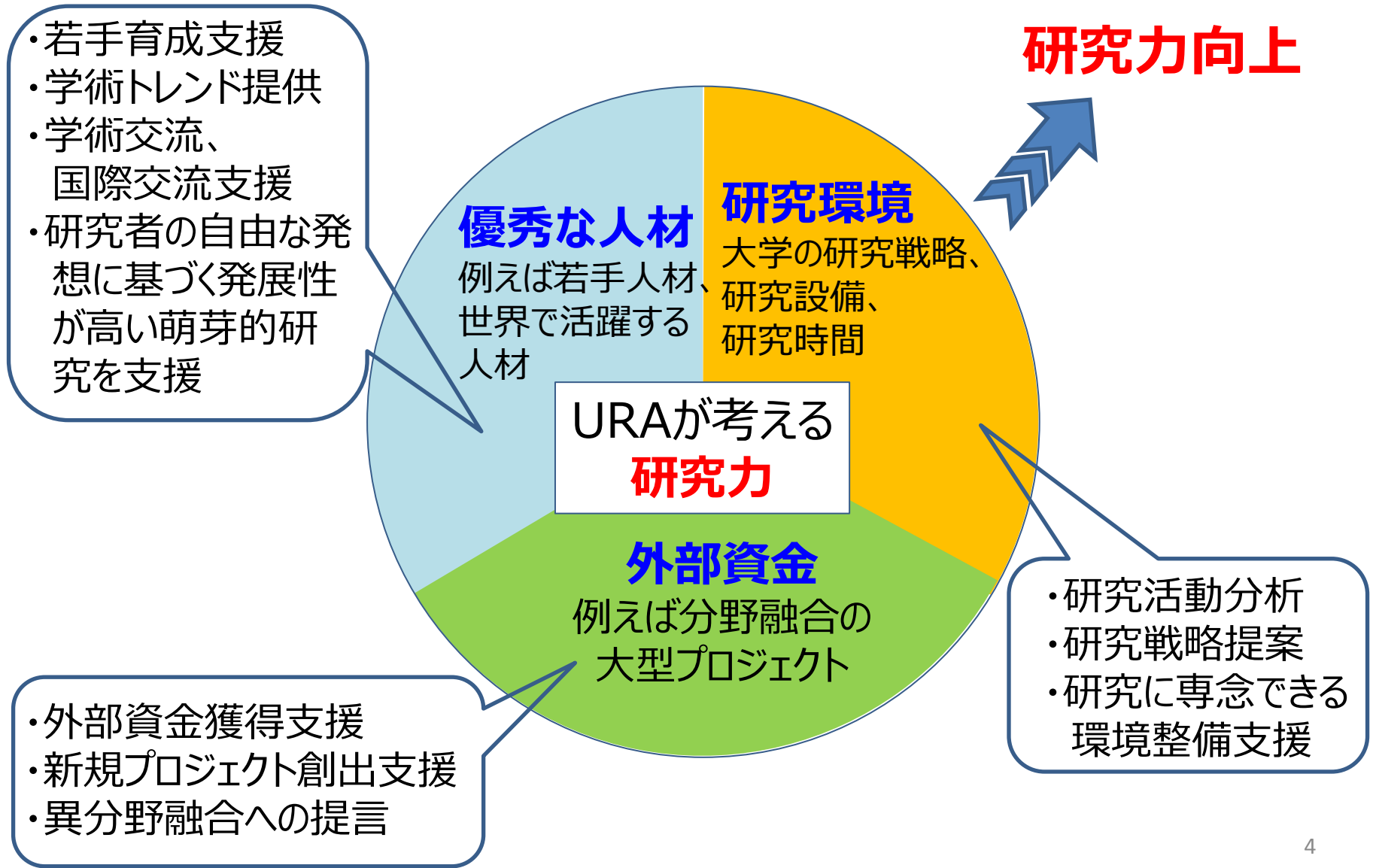
## 目的

研究力向上 サイエンスの発展へ貢献



# URAによる研究先導の取組

研究力向上のための取り組みを、「研究先導」ととらえてみたい





## 研究力強化戦略構築支援

- 情報収集
- 本学の研究活動の詳細分析・レポート、他大学とのベンチマーク

## プロジェクト支援

- 情報収集、学内周知、説明会・セミナー開催
- 立案支援
- 申請書ブラッシュアップ  
模擬ヒアリング

## 若手研究者支援

- 異分野交流の場の提供
- 外部資金獲得支援
- 論文執筆スキルアップ支援

## その他

- 他大学URAとの交流
- IR室との連携



# URAによる研究先導の課題 現場の視点から

- 短期間の実績と中長期的な取り組み、二兎を追う必要性！
- 第一線研究者ではないURAが、どこまで研究者の研究に関与できるか？
- 少人数のURAでは、広い分野、独自性の高い分野隅々まで理解できない対策は？
- 研究先導に要求されるURAのスキルは？
- URAの大学マネジメントへの関与が、どこまでできるか？
- 省庁へ制度改善などの提案できるか？
- URA人材不足対策は？



# セッションのねらい

それぞれの特色を持つ3大学が、  
「URAによる研究先導取り組み」の独自の事例を紹介する。

多様な研究先導の取り組みは、研究者に多様な研究の  
発展の可能性を示すことができ、真の研究力の向上につな  
がる。

皆様は、どんな目的で、URA活動を推進していますか？  
皆様の活動は、サイエンスの発展につながりますか？

3大学の事例が皆様の活動のヒントになることを願い、本  
セッションでは、「URAによる研究先導取り組み」について議  
論する。



# セッションの構成

	大学	氏名	所属・役職	発表題名・主題
司会	長崎大学	石井 宏明	研究推進戦略本部 URA	
全体紹介	長崎大学	王 鴻香	研究推進戦略本部 主任URA	URAによる 研究先導の取組
事例紹介	神戸大学	寺本 時靖	学術研究推進本部 特命准教授	神戸大学における プレアワード活動について
	徳島大学	角村 法久	研究支援・産官学連携センター 特任助教	徳島大学における プレアワード活動について
	長崎大学	王 鴻香	研究推進戦略本部 主任URA	長崎大学URA の挑戦
全体議論	モデレーター：長崎大学 石井 宏明 URA パネリスト： 神戸大学 寺本 時靖 特命准教授 徳島大学 角村 法久 特任助教 長崎大学 王 鴻香 主任URA			
まとめ	長崎大学	福永 博俊	研究担当理事 研究推進戦略本部長	課題と展望



平成27年9月2日 RA協議会第1回年次大会

長崎大学セッション  
「URAによる研究先導の取組」事例紹介  
神戸大学における  
プレアワード活動について

神戸大学  
学術研究戦略企画室(URA室)  
寺本 時靖

## 「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学」

連携・融合の力を最大限に発揮する卓越研究大学として  
世界最高水準の教育研究拠点を構築

### 1. 先端研究の推進

#### ○フラッグシッププロジェクト

- バイオリファイナリー
- 先端膜工学

#### ○伝統的な分野

- バイオシグナル分野
- 社会科学分野

### 2. 融合研究の創出

- 文理融合研究を目指したイノベーション新研究科の設置
- 分野横断型研究の創出

### 3. 先端的技術の開発と社会実装の促進

- 先端性・企業ネットワークを活かした研究成果の実用化・社会実装

## 1. 研究大学強化促進事業の中間評価に向けた指標改善

- 科研費の採択状況
- 戦略的創造事業の採択状況
- 国際化(論文・Q値)
- 産学連携

## 2. 中長期的に効力を発揮する研究力強化の仕組み作り

- 若手研究者の支援・育成
- 新規プロジェクトの創生支援
- 部局とのネットワーク確立
- 学内学外広報

## 3. 神戸大学全体の研究戦略の策定支援・実行

- 研究力分析と研究戦略策定支援

# 指標改善に向けた取組事例

## 課題：神戸大学の採択件数が近年伸び悩んでいる

### 分析結果

- ライバル大学に採択件数が抜かれている
- 他大学より一人当たりの申請数が少ない



### アクション

- 執行部へ現状と対策の報告
- 部局長会議で現状報告と申請数増のお願い
- 研究担当理事が主要部局の教授会で現状報告と申請へのお願い

➡ 平成27年度の申請数が大幅増加

## 科研費の指標におけるベンチマーキング

### 分析結果

- 研究者あたりの採択数は伸びている
- 若手種目の新規採択率が30位圏外である(弱み)
- 研究者あたりの配分額は近年頭打ち状態



➡ 配分額の分析を深掘りする必要があるのでは？

### 分析結果

- 直接経費の獲得金額がH25年度より下がっている
- 新学術領域と基盤研究Aの金額減少に原因がある



➡ やっぱり配分額の指標もこのままでは危ない！

# 科研費の弱み改善に向けたアクション 神戸大学

## URAアクション①

執行部へ「若手種目の採択率」と「大型種目の採択数」が弱みであると報告



ヤバイヨ



## 執行部アクション①

### 大学全体の重点方針の策定

- ① 若手研究(B)の採択率向上
- ② 大型種目の採択数アップ



## 執行部アクション②(URA共同)

### 科研費支援の制度設計

- インセンティブ付支援制度の制定
- 1) 大型種目挑戦型
  - 2) 若手種目支援 再挑戦型
- それぞれ50万円の支援費  
URAによる申請書作成支援

ガンバルヨ



## 執行部アクション③

### 部局への通知と対策依頼

- 部局長会議で方針の発表
- 部局へ対策チーム構築の命令

## URAアクション②

### 重点方針を具現化する企画と実施

- URAによる申請書作成支援制度の設計
- URAによる部局訪問で対策の相談
- URAが教授会で採択状況と支援制度の報告

執行部と連動したアクションを実施

# 文理融合プロジェクト創出の取組事例

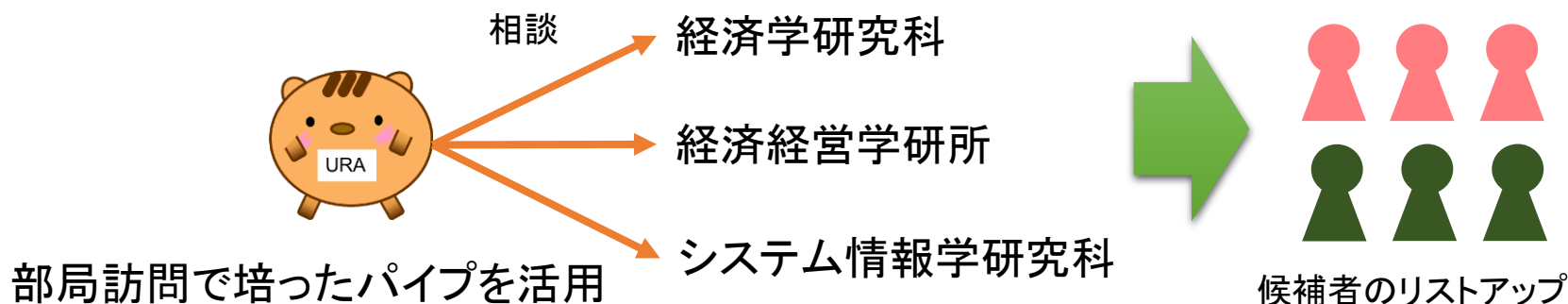


## ～競争的資金プルの創出例～

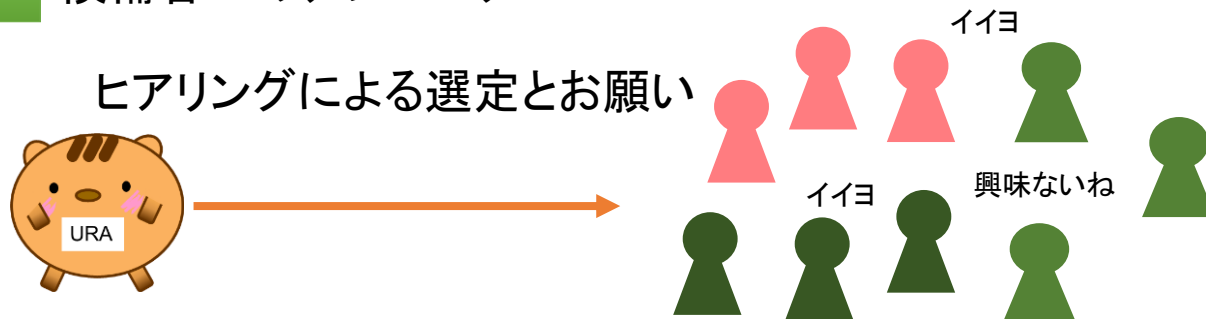
### 起点

- CREST・さきがけへの申請増に向けて部局長へお願い
- 理学研究科長から「数学分野」と「経済分野」と「情報分野」でチームを作れないか URAへ打診

### アクション1 学内研究者の探索

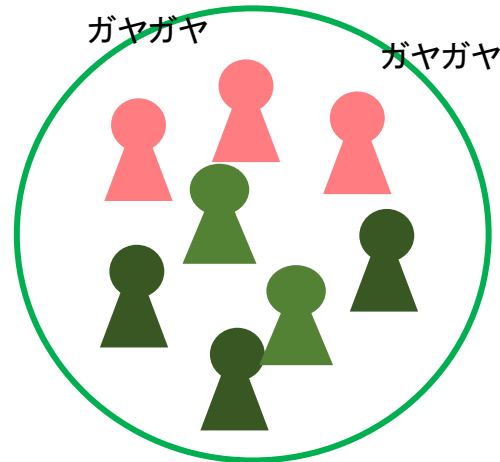


### アクション2 候補者へのアプローチ



## アクション3 交流会・勉強会の実施

- 日程調整
- 資料準備
- メインで話す人の決定
- 司会
- 議事録の作成



4回ほど開催したが・・・

### ●問題点

- 研究者間の言葉が通じない
- なかなか核になるテーマが見つからない
- 核になる人物も決まらない

次のステップへの秘策は・・・

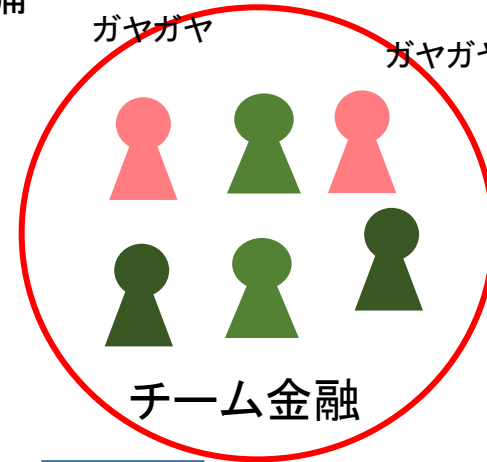
懇親会！（飲み会）

キーになったのは「ひとつの数学モデル」

- CREST申請のコアメンバー決定！
- さきがけ申請での連携体制も構築

## アクション4 CREST申請に向けた準備

- 日程調整
- 資料準備
- 公募要領の読み込み
- 領域の情報収集
- 申請書の添削



数学的アプローチ  
金融ネットワーク分析  
ネットワークシミュレーション



CREST採択に至らず……  
しかしあきらめませんでした



ショボーン

## 新アクション 科研費基盤(S)への挑戦

- 科研費インセンティブ支援の活用
- 申請書の添削
- ヒアリングに関する情報収集
- スライド作成支援業者の紹介
- ヒアリング練習のセッティング



採択！

包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：  
理論・実証・シミュレーション

## 1. 指標改善に向けた取組事例のポイント

- 俯瞰的な分析から弱みを発見し、その原因をさらに追究する
- 執行部へ分析結果を報告し、大学全体の課題であることを提言
- 執行部、部局を巻き込んだアクションを企画しURAがフォローする

## 2. 文理融合プロジェクト創出の取組事例のポイント

- 研究科長とのパイプはニーズ把握、研究者紹介で重要
- 分野が異なる研究者は言葉が通じない、URAが仲介するか、キーワードとなる言葉を見つける
- 飲み会は心の距離を縮める良いツール
- 競争的資金獲得目的でプロジェクトが始まって、継続すれば花開く(かも)
- 今回はGood Practiceの紹介でしたが、なかなかうまくいかないプロジェクトもあります。ただし、URAが常に介在することで継続性は担保で来ます



# 徳島大学における プレアワード活動について

国立大学法人徳島大学  
研究支援・産官学連携センター  
特任助教 角村 法久

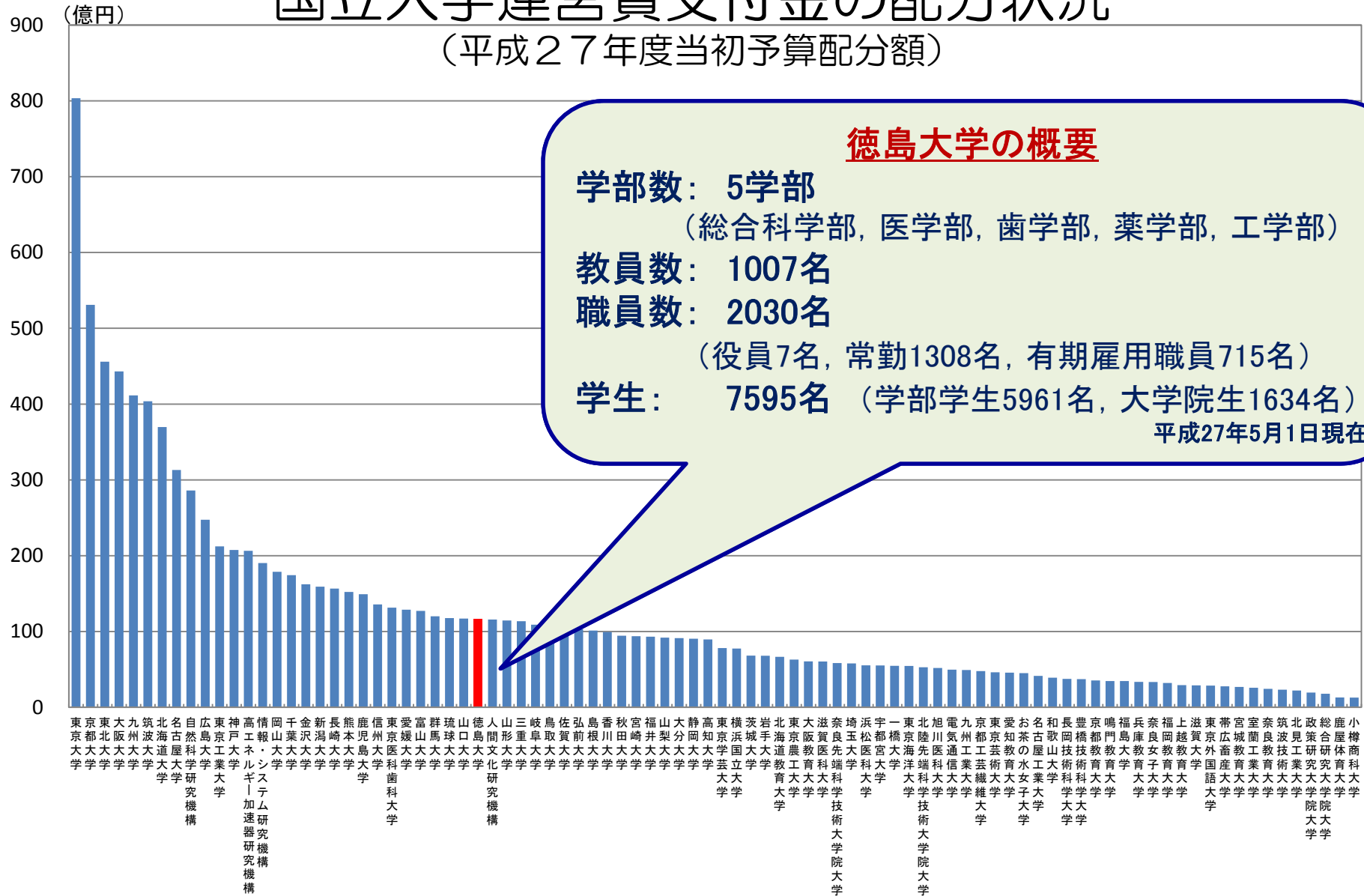


# 本日のメニュー

1. 徳島大学の概要（運営費交付金・科研費）
2. 研究支援体制
3. プレアワード活動についての事例
  - ①プロジェクト支援：組織構築
  - ②プロジェクト支援：申請書作成支援

# 国立大学運営費交付金の配分状況

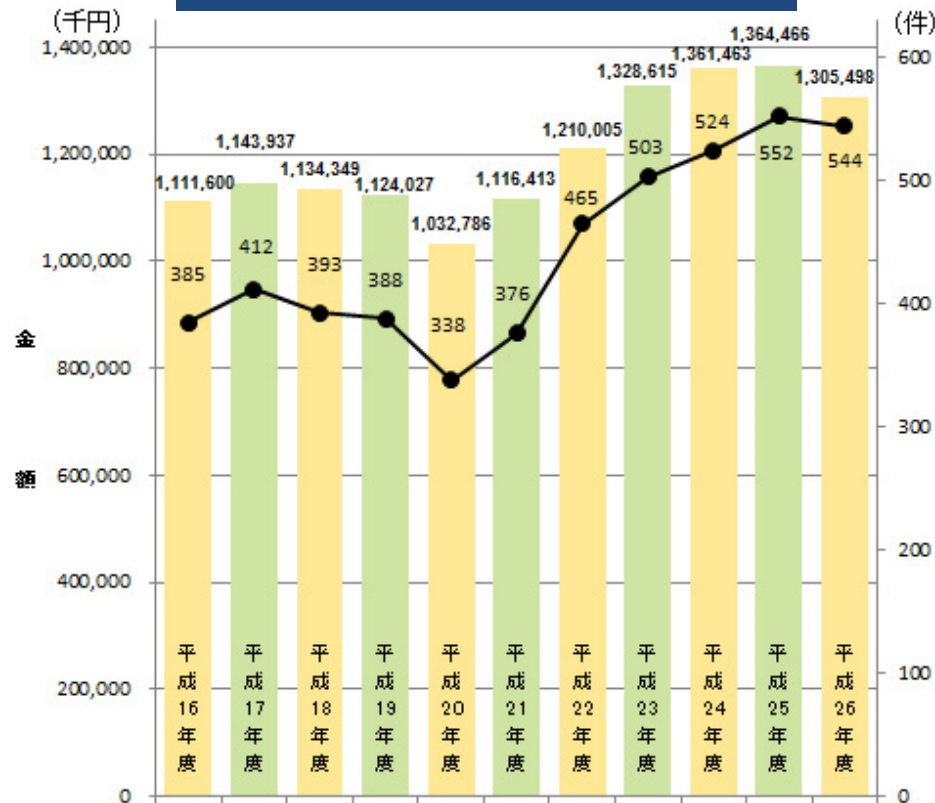
(平成27年度当初予算配分額)



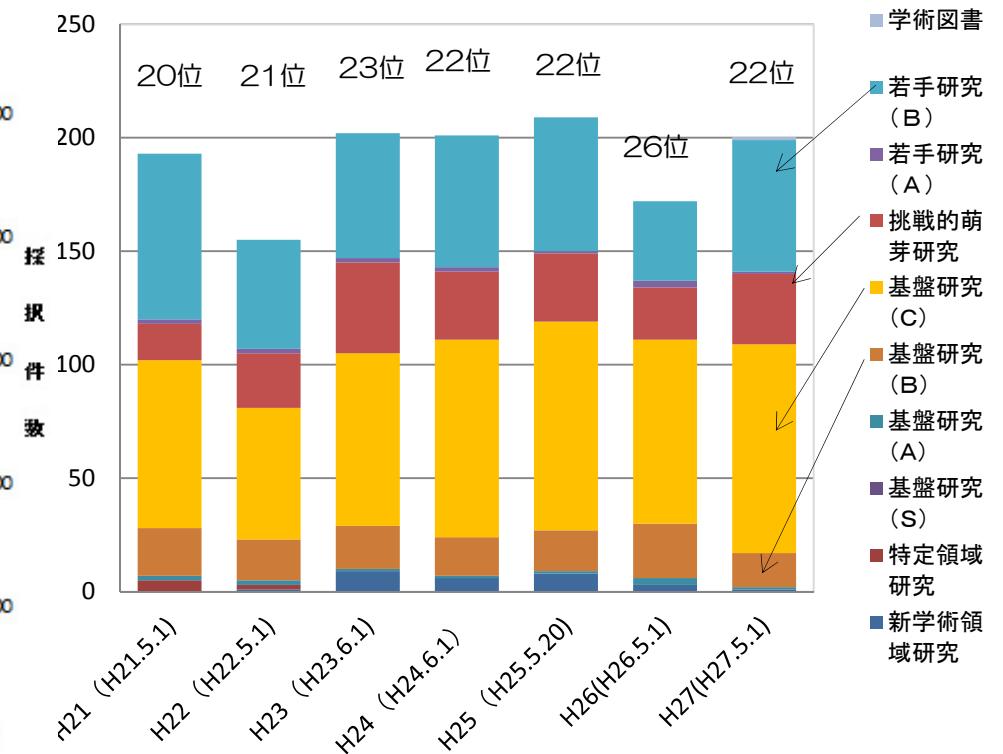
9/1 大学執行部特別セッション「大学経営におけるURAの活用」より

# 徳島大学の科研費採択状況

平成16年度からの採択件数及び金額(新規+継続)



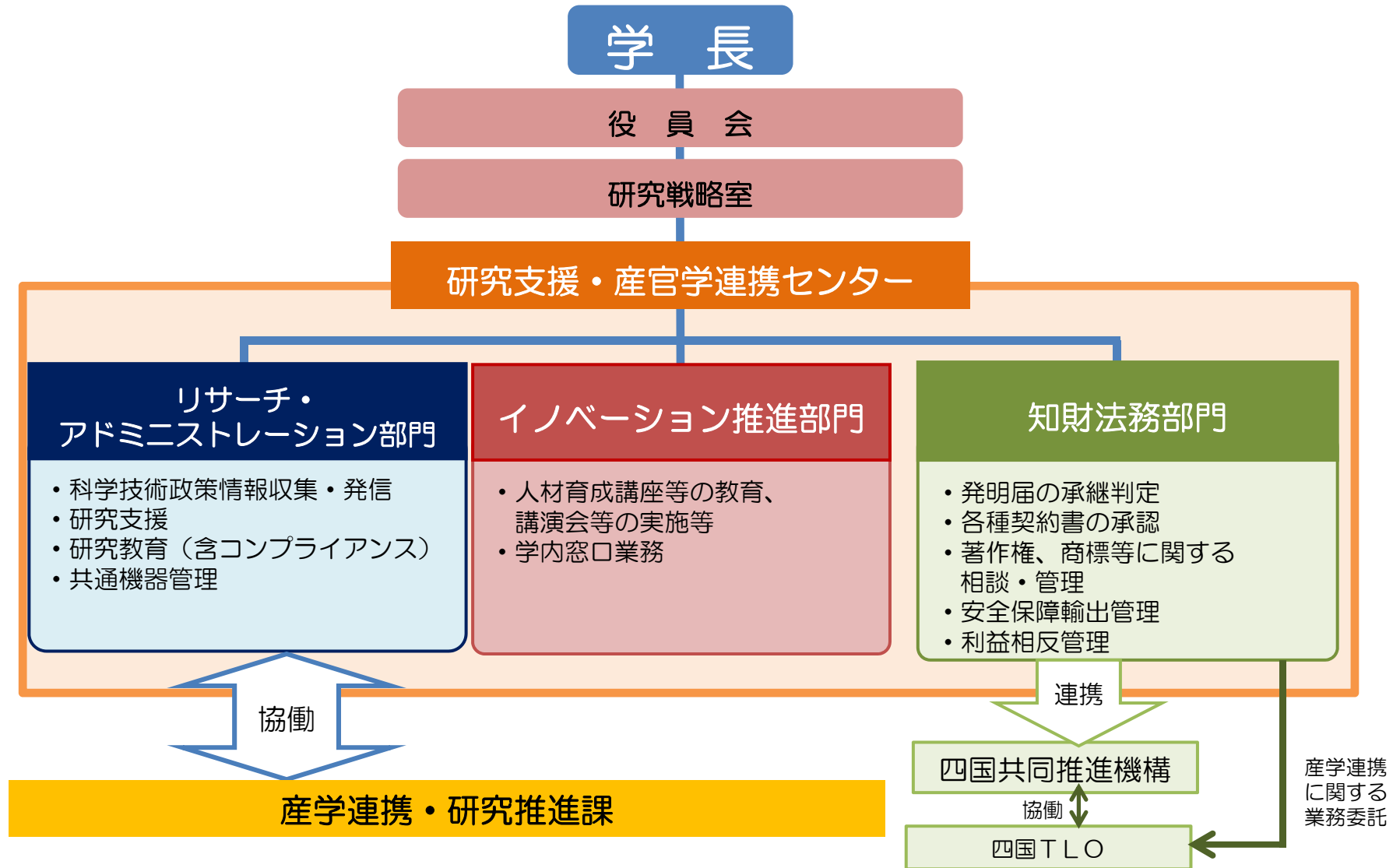
平成21年度から種目別採択件数(新規のみ)と全国順位



9/1 大学執行部特別セッション「大学経営におけるURAの活用」より



# 研究支援体制(27年度)



# 現在のURA部門の組織図

研究支援・産学連携センター

リサーチ・アドミニストレーション部門

## 部門長（荒木URA）

部門運営（際田 センター長、織田 副センター長  
荒木URA、西川URA、嵯峨山URA、角村URA）

### 戦略グループ（荒木URA）

科学技術政策情報（○嵯峨山URA、荒木URA、角村URA）

研究力強化戦略（○荒木URA、嵯峨山URA）

### 研究支援（西川URA）

研究支援  
（○西川URA、嵯峨山URA、角村URA、西岡）

研究力分析（○西川、西岡、際田）

研究教育（○西川、際田）

共通機器管理（○佐藤、真鍋）

### 人材コンソーシアム事業（角村URA）

○角村、荒木、西川

若手の  
教授

## 学内教員及び事務職員 URA部門スタッフ

- 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 教授 高橋 晋一
- 大学院医歯薬学研究部（医）  
教授 井本 逸勢
- 大学院医歯薬学研究部（歯）  
教授 市川 哲雄
- 大学院医歯薬学研究部（薬）  
教授 難波 康裕
- 大学院ソシオテクノサイエンス研究部  
教授 永瀬 雅夫
- 疾患酵素学研究センター  
教授 立花 誠
- 疾患プロテオゲノム研究センター  
教授 片桐 豊雅

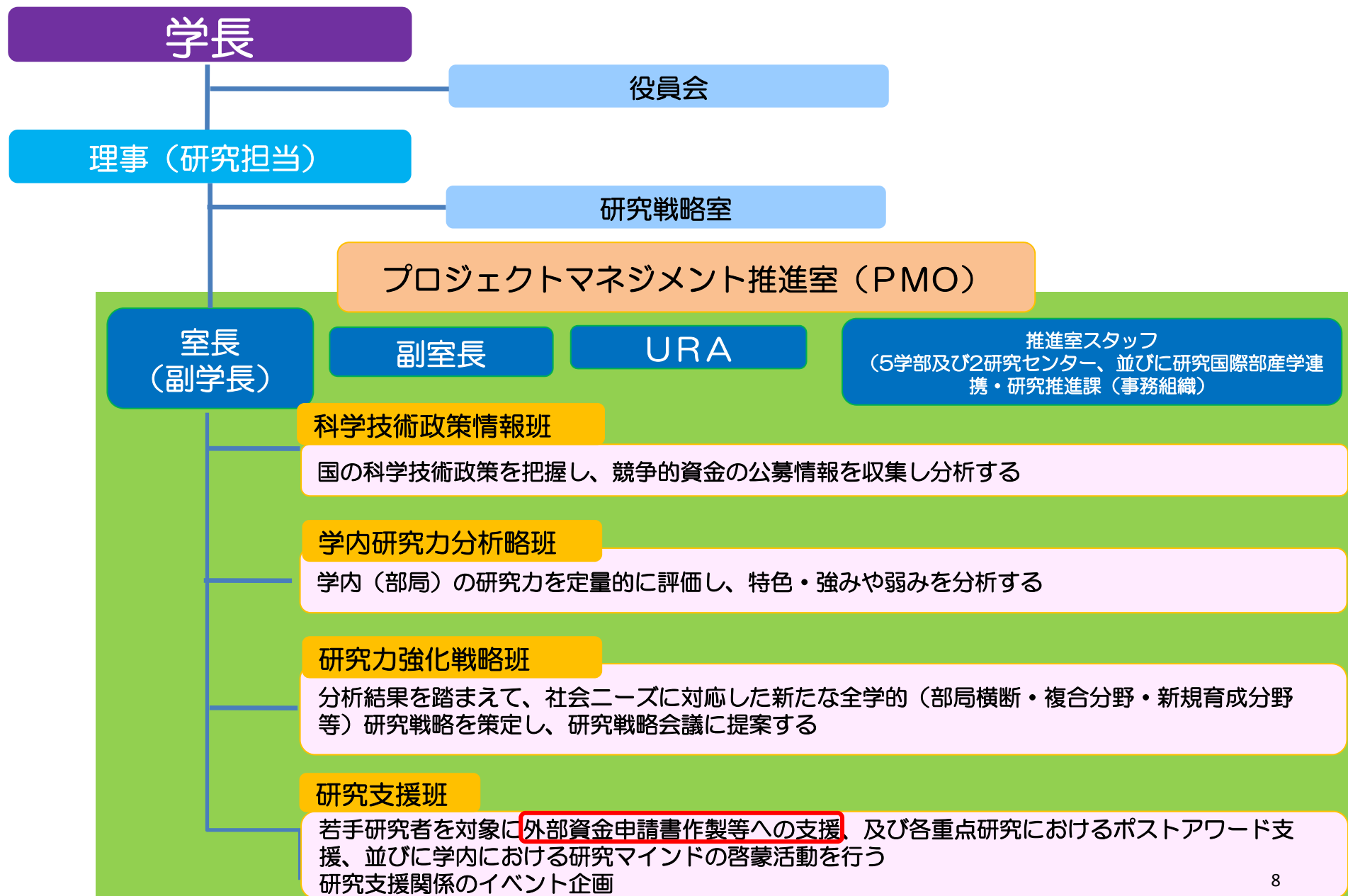
研究推進部産学連携・研究推進課  
課長 玉田 昌宏

連携

# 報告1：組織構築

- 概要：URA組織構築の歴史
- 内容：平成24年のプロジェクトマネジメント推進室設置から、平成27年のリサーチ・アドミニストレーション部門設置に至る経緯
- 目的：研究先導に最適な組織の模索

# 徳島大学プロジェクトマネジメント推進室組織図(案)



- 1年目:プロジェクトマネジメント推進室設置(H24)
- 人 員:室長(併任)、副室長(併任)  
URA(専任)、教務補佐員 各1名

- 活動実績:(**研究支援班**の内容)

科研費研究計画調書作成支援:

講演会, 講習会, セミナー等開催:

若手研究者向け外部資金獲得の勉強会:

情報発信(メールマガジン):

ささやかな  
出発

**自前  
主義**

**悩み:数をこなす割に、参加者が増えない**

部局長、学科  
長、外部資金を  
獲得している有  
力研究者等

**地道な研究室訪問を開始し、知名度向上を図る。**

• 2年目:プロジェクトマネジメント推進室(H25)

緊急事態:副室長、URA、教務補佐員の退職

HELP

知識継承  
の問題

再度、URA(専任)の採用から再スタート  
最終的に室長(併任)、URA(専任)、教務補佐員体制

外部  
の力

活動内容の見直し:

科研費研究計画調書作成支援:名誉教授活用

講演会,講習会,セミナー等開催:外部講師活用

研究力の  
基盤固め

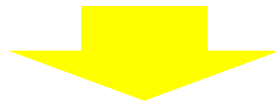
- 3年目：プロジェクトマネジメント推進室（H26）

活動内容の充実：

研究力分析（SciValの活用）

研究計画調書作成支援：科研費以外にも支援拡大

講演会，講習会，セミナー等開催：外部講師依頼



- 4年目：リサーチ・アドミニストレーション部門（H27）

活動内容の再構築：

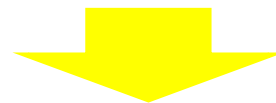
異分野融合の研究促進

研究力分析（SciValの活用）

研究計画調書作成支援：科研費以外にも支援拡大

講演会，講習会，セミナー等開催：外部講師依頼

経験の蓄積、  
URAの増員



## 報告2: 科研費採択件数向上に向けて

- 概要: 科研費採択件数向上の取組
- 内容: 申請書のブラッシュアップの仕組み
- 目的: 大学としての研究力向上  
URA組織としての知名度向上



## ②プロジェクト支援：申請書作成支援 科研費研究計画調書

平成25年度

# ブラッシュアップ大作戦

- 研究課題1件に対し、2名の名誉教授(平成20年度～平成25年度)による  
査読
- 査読者の選定はURA側で行い、応募者には査読者名は原則匿名とする
- 査読後の文章・内容の変更等に関しては、応募者の判断に任せる

当初想定されていた問題点：

・査読者と申請者との分野違い(マッチング)の問題

→アンケート項目で現状を確認し、次年度対策を検討することで対応

## H25 平成26年度科研費計画調書のブラッシュアップ大作戦

(研究課題1件に対し、2名の名誉教授による査読を実施)

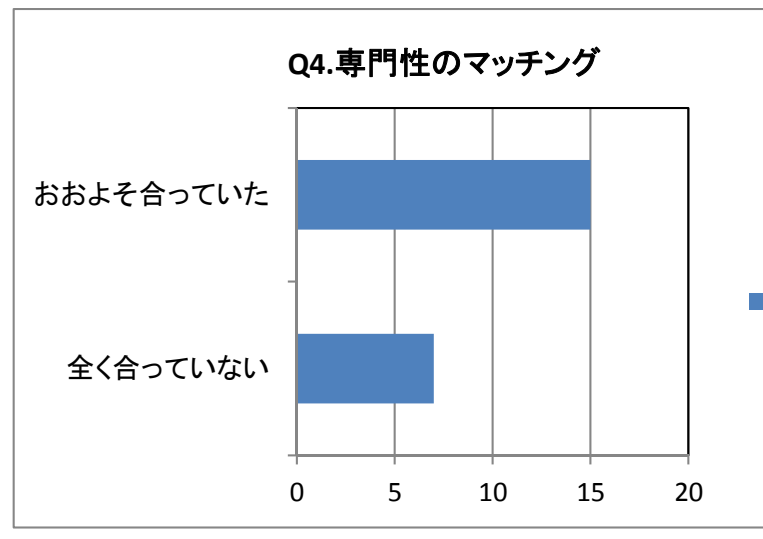
名誉教授(平成20年度～平成25年度)74名中34名が査読員登録うち29名実施  
支援件数(奨励研究も含む):25件 採択件数:10件

ブラッシュアップ大作戦	ブラッシュアップ支援件数	採択件数	ブラッシュアップ支援採択率
新学術領域研究(研究領域提案型)	1	0	-
基盤研究(S)	-	-	-
基盤研究(A)	-	-	-
基盤研究(B)	2	1	50.0
基盤研究(C)	9	6	66.7
挑戦的萌芽研究	4	0	0.0
若手研究(A)	2	2	100.0
若手研究(B)	6	1	16.7
学術図書	-	-	-
奨励研究	1	0	0.0
計	25	10	40.0

大学全体	徳島大学応募件数	徳島大学採択件数	徳島大学全体採択率
新学術領域研究(研究領域提案型)	49	3	6.1
基盤研究(S)	2	0	0
基盤研究(A)	7	3	42.9
基盤研究(B)	73	24	32.9
基盤研究(C)	235	81	34.5
挑戦的萌芽研究	107	23	21.5
若手研究(A)	9	3	33.3
若手研究(B)	141	35	24.8
学術図書	1	0	0.0
奨励研究	9	1	11.1
計	633	173	27.3

# H25 申請者と査読者の専門分野の マッチングについて（査読者側）

## Q4. 申請者と査読者の専門性のマッチングについて



平成26年度科研費申請書ブラッシュアップ大作戦」アンケート調査報告より

- 医歯薬関連のテーマであれば、医学・生物学を基調としたものであり、**マッチングに拘る必要は無い**。
- **限られた査読者数ですから、マッチングがうまくできなくても仕方ありません**。実際の審査では数10件（私の場合は80件程度）の申請書を読みますので、精通していない研究が多く含まれます。このようなことから、研究内容の表現とか形式についてのアドバイスも重要と考えます。すなわち、専門外の採点者に減点理由を見出させないように書くことも重要です。その手助けになればと思います。
- サイエンスの基本は変わらないので、**少々分野の異なりは問題ありません**。ロジックや書き方や説得力を判定することは、大きく分野があっていれば一般に可能です。
- **全くあっていない方が、門外漢のつもりでかえって効果的な助言ができる**。素人にも理解できるほど平易に書かれることが申請の骨である。
- **完全にマッチングすることは不可能**で、やや専門外の分野に当たることはやむを得ないと思います。**ただし、申請者の専門的立場から見ると、査読員が場違いな指摘をする可能性があることを危惧しています**。
- 専門からあまりにもかけ離れていますと、自信を持ってません。

# H25 申請者と査読者の専門分野のマッチング等について（申請者側）

## Q3. 専門性のマッチングについて

1	全く合っていない	2名
2	おおよそ合っていた	18名

- お二人から査読をいただき、**お一人の方は用語の理解度から適切なマッチング**であったと思う。もうお一人は、少々合っていなかったように感じた。しかしながら、汎用的なコメントについては専門を問わず有用であり、修正をする上で役立った。
- 今回の査読では2名とも高い評価をしてくださったが、どのような分野を専門にしておられる先生かは分からないので、科研費の分類で分科くらいまでの専門性を示していただければ助かります。
- **小生の申請書に関しては、査読の先生方の専門がマッチ**しており、とても貴重な意見等をいただくことができました。予め、ブラッシュアップ予定の申請者の提出予定の研究領域や仮題等を送るようにしておけば、マッチングの精度はより向上するのではないかと考えております。
- **申請内容ではなく、申請する分野・分科・細目を踏まえて査読者を決定して頂きたい。**

## Q5. 査読を受けた感想

1	とてもよかった	12名
2	よかった	6名
3	ふつう	2名
4	あまり良くなかった	0名
5	良くなかった	0名

- 自分では気がつかない点を指摘してもらえてよかった。丁寧に見てもらえたと思うが、せっかくなので、もっときつい(率直な?)指摘があっても良かったと思う。
- アドバイスいただける先生が少ない環境でしたので、査読者からのアドバイスは厳しいご指摘も含めて大変参考になりました。また、査読者が匿名であるという点も、良かったように思います。
- 文章の書き方の点でいくつか指摘を頂けたことはよかったが、研究内容についての指摘が頂けなかった。この内容で採択されるか否か不安なので、**査読の先生がもし科研の審査員**だとしたら、**何点の評価をつけるか知りたい**

平成26年度科研費申請書ブラッシュアップ大作戦」アンケート調査報告より

## ②プロジェクト支援：申請書作成支援 科研費研究計画調書

平成25年度

# ブラッシュアップ大作戦

- 研究課題1件に対し、2名の名誉教授(平成20年度～平成25年度)による査読
- 査読者の選定はURA側で行い、応募者には査読者名は原則匿名とする
- 査読後の文章・内容の変更等に関しては、応募者の判断に任せる



平成26年度

- 研究課題1件に対し、2名の名誉教授(平成20年度～平成26年度)による査読(通常査読)＝査読者名は匿名
- 研究課題1件に対し、1名の名誉教授による徹底査読(査読者名公開)
- 査読後の文章・内容の変更等に関しては、応募者の判断に任せる

# H26 平成27年度科研費計画調書のブラッシュアップ大作戦

研究課題1件に対し、2名の名誉教授による匿名査読を実施：通常査読）

応募者と査読者（名誉教授）の電子メールによる直接やり取りによる支援：徹底査読）

名誉教授（平成20年度～平成26年度）91名中36名が査読員登録うち33名実施

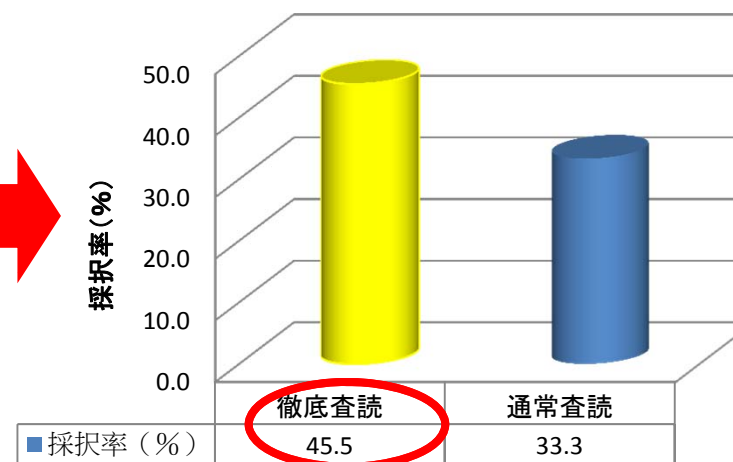
支援件数（奨励研究も含む）：35件 採択件数：13件

## ブラッシュアップ大作戦

研究種目	ブラッシュアップ 支援件数	採択件数	ブラッシュアップ 支援採択率
新学術領域研究（研究領域提案型）	-	-	-
基盤研究（S）	-	-	-
基盤研究（A）	-	-	-
基盤研究（B）	3	0	0.0
基盤研究（C）	7	3	42.9
挑戦的萌芽研究	1	0	0.0
若手研究（A）	1	1	100.0
若手研究（B）	21	9	42.9
学術図書	-	-	-
奨励研究	2	0	0.0
計	35	13	37.1



徹底査読、通常査読による採択率の比較



## 徳島大学

研究種目	徳島大学 応募件数	徳島大学 採択 件数	徳島大学 全体 採択率
新学術領域研究（研究領域提案型）	29	1	3.4
基盤研究（S）	3	0	0
基盤研究（A）	7	1	14.3
基盤研究（B）	78	15	19.2
基盤研究（C）	257	92	35.8
挑戦的萌芽研究	119	31	26.1
若手研究（A）	7	1	14.3
若手研究（B）	150	58	38.7
学術図書	1	1	100.0
奨励研究	13	3	23.1
計	664	203	30.6

# H26申請者と査読者の専門分野の マッチングについて（査読者側）

## 専門分野マッチングについて

1 全く合っていない	3名
2 おおよそ合っていた	16名
無回答	1名

- 専門分野が全く異なっており、背景をそれなりに理解するのに、時間が必要だったし、十分なコメントをできなかったと感じています。ただ、計画調査の記述テクニックについては、専門外の視点からですが、少しはコメントできたかと思っています。
- 研究分野が多岐に及んでいることは学問の発展には必要です。**マッチングが少し悪くなるのも仕方ありません。**
- **今回は、合っていた。**合わないと時間的に苦しくなるので、2件以内なら多少ずれていてもOKです。
- 学術用語の使い方までチェックするのであれば専門分野のある程度の近さが求められるのだらうと思いますが、申請の筋道の組み立てや文章構成についてのチェックということであれば特に厳密なマッチングは必要ないように思います。つまり、医療関係であればなんとかこなせるでしょう。
- 専門分野の一致は難しいと思いますが、**事務局で配慮していただき助かりました。**
- 今回は専門的にも近い分野でしたが、**特に専門分野にはこだわりません。**
- 私のような理論研究を行っている人は少ないのだなと思いましたから、必ずしもマッチングしなくても、どうということはありません。

# H26 申請者と査読者の専門分野の マッチング等について（申請者側）

## 専門性のマッチングについて（通常査読・徹底査読）

1	全く合っていない	2名
2	おおよそ合っていた	21名
3	無回答	3名

- 全く合っていなかったが、専門外の方にもわかりやすく提案書を書く点で、参考になるところが多々あった。
- 専門性のマッチングは重要視していない。論理的な書き方がされているかを評価されればよく、査読結果はその目的を果たしていた。
- 当分野では審査員が歯科関係者からなので、それほど簡単にする必要は無いとあとで指摘されました。ただし、他分野の方の意見を聞くことで考えが広がったと考えられます。
- できれば、同じ分野の先生、もしくはそれに関連した研究をしている先生に査読をお願いできれば幸いです。
- 申請者と査読者のマッチングではなくて、審査分野と査読者のマッチングであるべきだと思います。今回の私の場合「出すべき適当な分野が見つからないのでアドバイスが欲しい」への対応はありませんでした。

## 通常査読を受けた感想

1	とてもよかった	7名
2	よかった	7名
3	ふつう	1名
4	あまり良くなかった	0名
5	良くなかった	0名
6	無回答	2名

## 徹底査読を受けた感想

1	とてもよかった	6名
2	よかった	0名
3	ふつう	2名
4	あまり良くなかった	1名
5	良くなかった	0名

- マッチングは全く合っていなかったが、専門外の方にもわかりやすく提案書を書く点で、非常に参考になるところが多々あった。
- 他分野の先生の意見を聞くことが新鮮で、視野が広がった気がします。査読担当の先生にはご迷惑をおかけしたかもしれませんが、得がたい経験でした。
- ただ、専門分野は合っていましたが、査読者が所属機関に過去に所属されていた先生であるため、気を使ってしまい、改善点を積極的に聞くことが難しかったと思います。多少の専門分野が異なっても良いので、徹底査読でも、複数の査読者のなかから査読者を選択できる等の仕組みがあればと感じました。

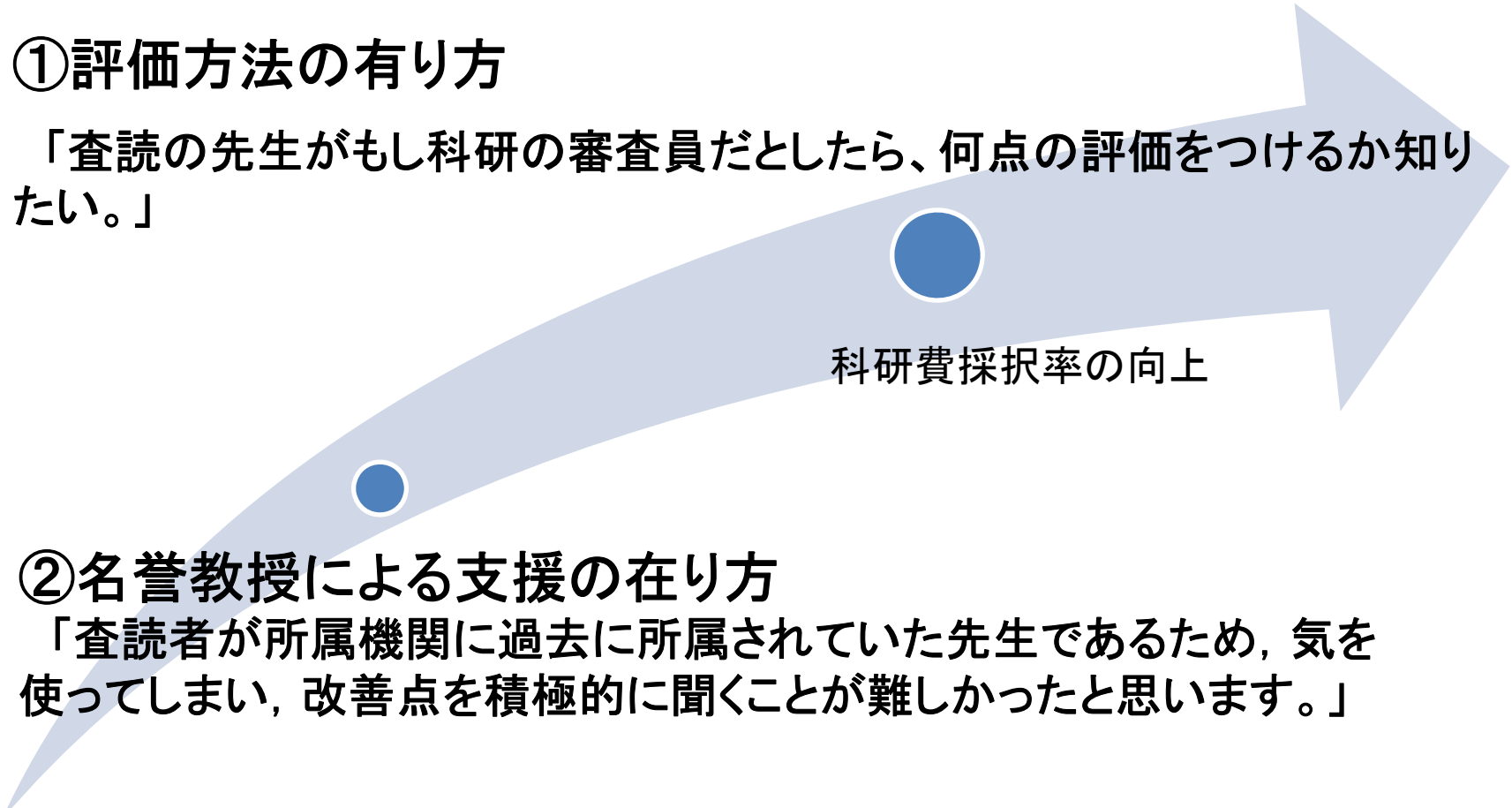


# 科研費計画調書ブラッシュアップ大作戦 —更なる飛躍のために—

## 今後の課題

### ①評価方法の有り方

「査読の先生がもし科研の審査員だとしたら、何点の評価をつけるか知りたい。」



科研費採択率の向上

### ②名誉教授による支援の在り方

「査読者が所属機関に過去に所属されていた先生であるため、気を使ってしまい、改善点を積極的に聞くことが難しかったと思います。」

ご清聴ありがとうございました。  
ございました。



プレアワードセッション URAによる研究先導の取組

# 長崎大学URAの挑戦



長崎大学  
NAGASAKI UNIVERSITY

長崎大学  
研究推進戦略本部

王 鴻香

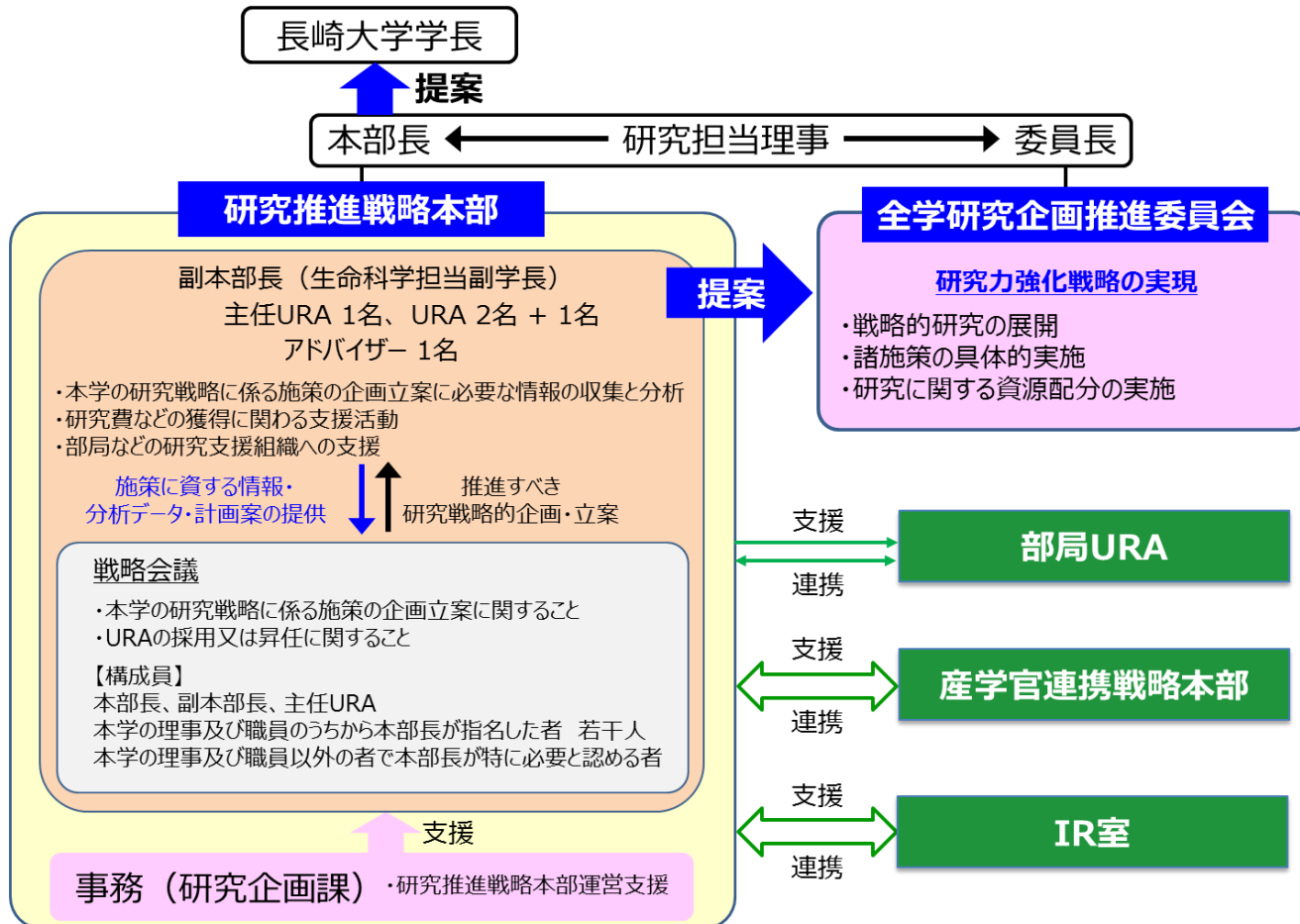


# 長崎大学研究推進戦略本部の紹介

**設置の目的** (H23年12月 自主経費で設立)

長崎大学における**研究力の強化に向けた施策を講ずるとともに、研究費等の獲得に関する支援**を行い、併せて**部局等の研究支援組織との連携**を図ることにより、本学の研究の充実・推進に資することを目的とする。(長崎大学研究推進戦略本部規則より)

## 組織図





## 研究力強化戦略構築支援

- 情報収集
- 本学の研究活動の詳細分析・レポート、他大学とのベンチマーク

## プロジェクト支援

- 情報収集、学内周知、説明会・セミナー開催
- 立案支援
- 申請書ブラッシュアップ  
模擬ヒアリング

## 若手研究者支援

- 異分野交流の場の提供
- 外部資金獲得支援
- 論文執筆スキルアップ支援

## その他

- 他大学URAとの交流
- IR室との連携



## URAがつなげる人と研究のネットワーク

URAは、研究者、大学執行部、事務職員を繋げることによって、人だけではなく、学内の研究のネットワークも構築されつつある。

**二つのネットワークの構築による研究推進を加速する**

学内研究者ネットワーク

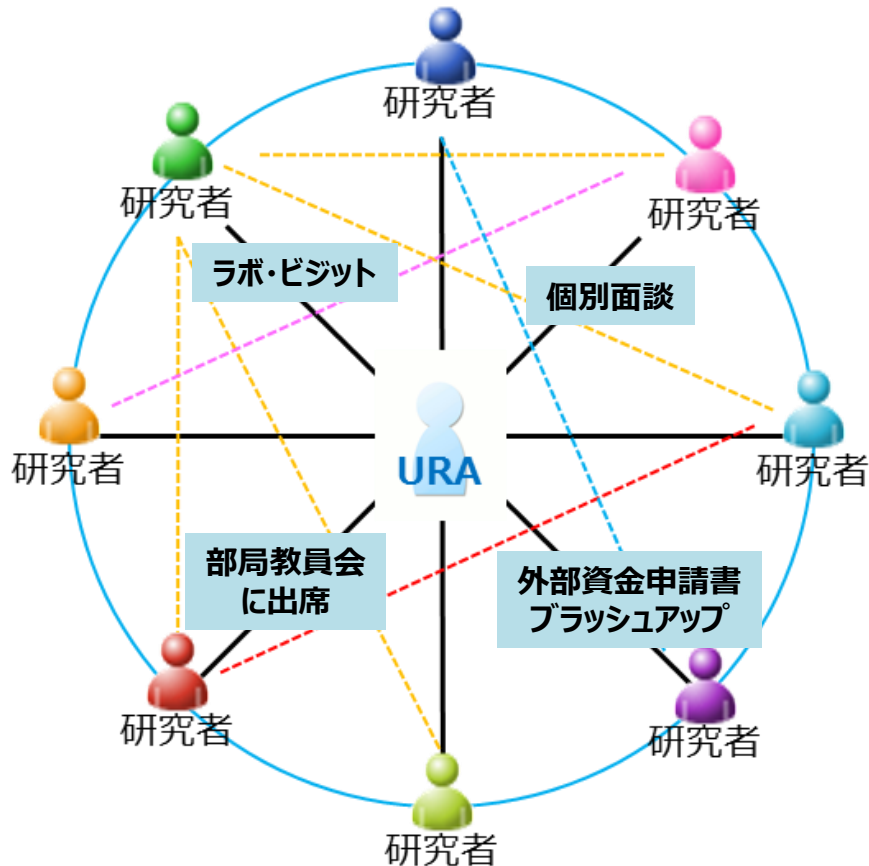
執行部・研究者・URAネットワーク

# 学内研究者ネットワークの構築と活用



# URAが繋げる 研究と人

人をつなげる ↔ 研究をつなげる ↔ 新しい発想が生まれる



コミュニケーションの積み重ねで  
URA-研究者信頼関係を構築  
研究者ネットワークを構築



学内研究シーズ把握  
異分野共同研究創出  
外部資金申請機会拡大  
新しい発想  
研究の発展

さまざまな交流の場の創出

頭脳交流ミーティング  
科研費相互ブラッシュアップワークショップ  
研究室相互訪問の仲介





# 異分野交流の場の創出

## URA主催の合宿式頭脳交流ミーティング



異なる分野の研究者が、日常的居場所である大学から離れた場所で一堂に会いし、プレゼンテーション、研究交流、自由な意見交換などを行う。**毎年1回異なるテーマで実施する。**  
**学内研究者同士をつなげて研究交流の気運を形成する。**

参加者：  
学長、理事、副学長、  
研究者、URA、  
研究支援事務職員など

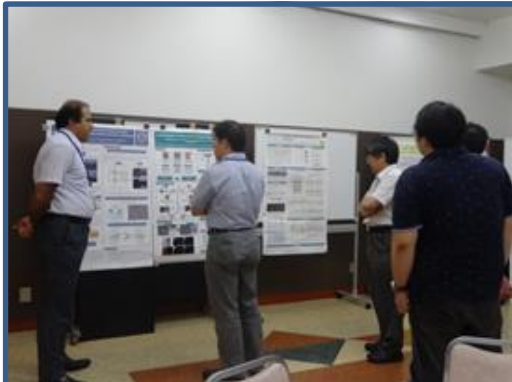
学長も議論に参戦！ →



**このミーティングがきっかけになり、  
こんなことが生まれた！**

- 異分野の研究者と一緒に科研費を応募した。
- 異分野の研究者と共同研究を始めた。
- 学長と理事に声をかけられて、嬉しかった。
- 同年代の異分野研究者との交流が始まった。
- 来年も参加したい。

- 若手-中堅の気運形成
- 異分野融合プロジェクトの誕生を期待したい！
- 研究者・URA・事務のネットワークが拡大！





# URAの目利き

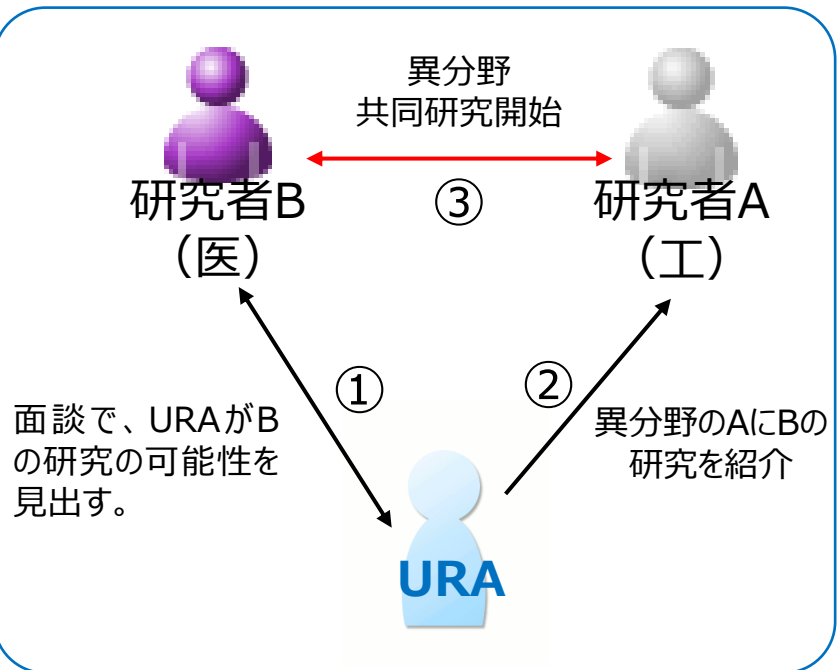
URAが、研究課題・シーズ、研究者が温められている研究構想に触れ



研究者に対して外部資金の提案、異分野領域への視野の拡大提案



研究の新たな切り口の発見、外部資金申請機会拡大などに繋がる



## URAに求められる能力

- 研究者の研究をできるだけ正確に理解する。
- 時には専門外分野についても勉強する。
- 各種プロジェクトの全体像と特性を把握する。
- 研究者の潜在的な研究の魅力を引き出す。

★長崎大学URAの採用条件に「博士学位」が必須。  
(生物分野、理工学分野、水産学分野各1名)

# 執行部・研究者・URAネットワーク



# 戦略会議

URAが執行部と研究者を最短距離で繋げる。研究活動の促進が加速される。

**大学  
執行部**

- 研究戦略策定のための的確な情報が迅速に把握できる。
- 研究者と直接に研究を議論できる。

**戦略会議**

研究戦略  
企画・立案

**URA**

**事務職員**

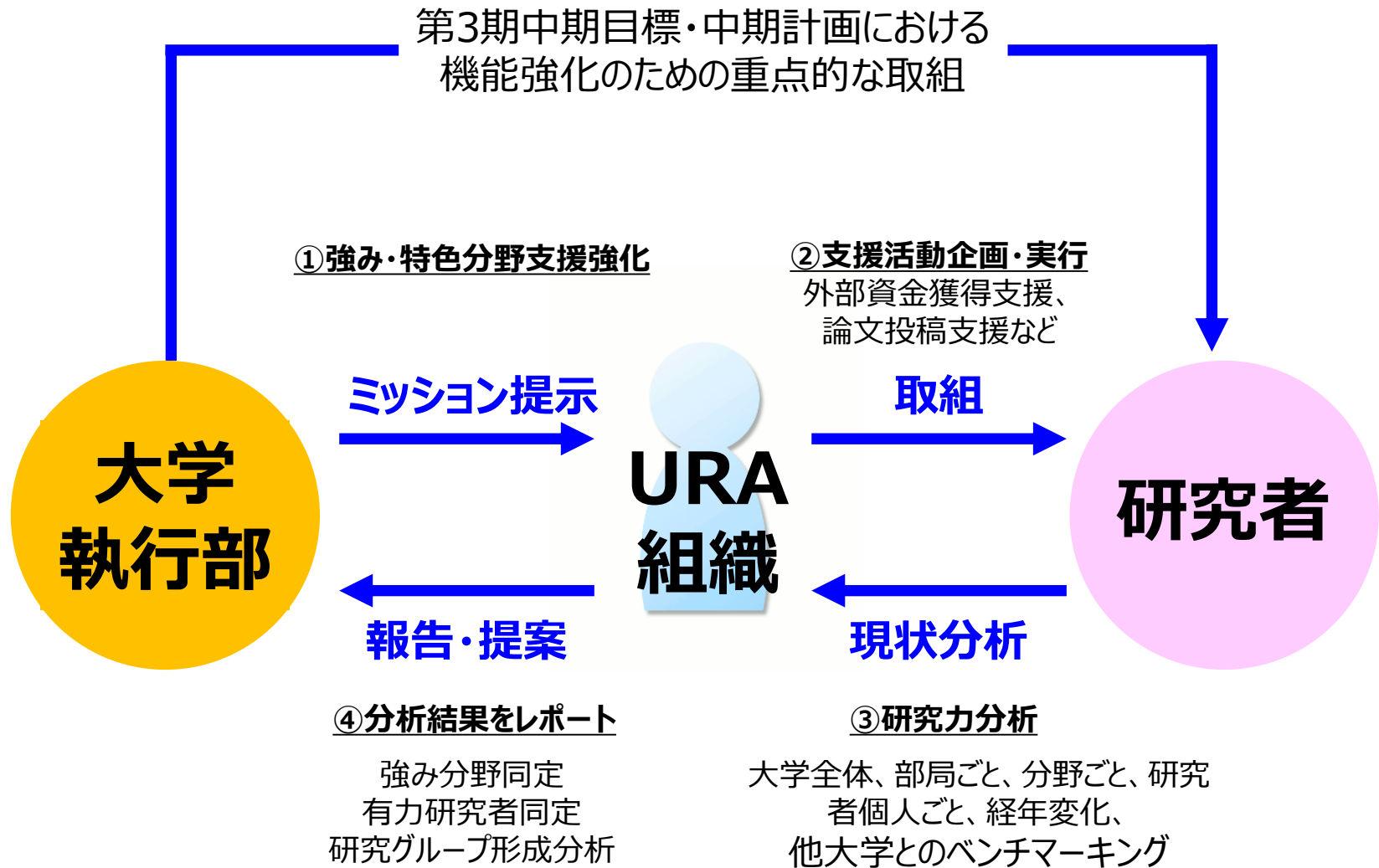
URAと事務の協働が  
すぐに始められる。

**研究者**

- 大学の研究戦略の可視化
- 研究者の提案が執行部に届く。



# 執行部・研究者・URAネットワークの働き





# まとめ

## 今までのどんな取り組みが「研究先導」になったか？

- 詳細な研究力分析データが、中期目標の数値目標の決定、第3期中期目標・中期計画における機能強化のための重点的な取組戦略策定の客観的データとして利用された。
- URAによる科研費調書ブラッシュアップによって採択率が向上した。
- URAの提案で共同研究の検討を開始。URAが支援した大型プロジェクトの採択。

## 目に見えないものもある

- URA – 研究者の面談  
研究者より：研究のヒントをもらった。こんな考えもあるのか！研究を見直す機会となった。  
→研究の発展に繋がる。
- 学内研究者ネットワーク：研究交流気運の形成

**特別なスキルがなくても、日々の取り組みの中で、「URAによる研究先導」が可能。**

**URAは「研究先導」の意識を持って活動することが重要。**